



幕末期の儒家・陽明学者 山田方谷が立てた小庵  
方谷庵

指定区分	県指定史跡
読みかた	ほうこくあん
所在地	新見市大佐小南
指定年月日	昭和40年2月24日
解説	明治3年(1870)、山田方谷が隠棲の後に建てた、継志堂とも呼ばれる小庵。母の実家西谷家の墓地がある金剛寺の境内に持仏堂を建て、外祖父母の霊を祠った。この持仏堂は、3畳の仏間と床の間を中心とした平屋の簡素な建物である。方谷は毎月何回かこの庵にお参りして想いにふけていたといわれる。
アクセス方法	JR刑部駅から徒歩15分
公開状況	【山田方谷記念館】開館:10~16時 / 有料 / 休館:月・火曜日
設備	駐車場  トイレ 
備考	

## きつずページ

していくぶん (指定区分)	県指定史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	方谷庵
よみかた	ほうこくあん
しょざいち (所在地)	新見市大佐小南
していつひ (指定した日)	昭和40年2月24日
せつめい	山田方谷(やまだほうこく)は、莫大(ばくだい)な借金(しゃっきん)をかかえていた松山藩(まつやまはん)を建て直(なお)した、江戸時代(えどじだい)おわりごろの学者(がくしゃ)です。方谷(かた)がふるさとに帰(かえ)ってきたときに建(た)てられた小さな家(いえ)が残(のこ)されています。方谷(かた)はこの家で祖父母(そふぼ)の霊(れい)をまつりました。すぐそばには山田方谷記念館(きねんかん)が建(た)てられ、方谷(かた)のことを学ぶ(まな)ぶことができます。